

『いじめにあって考えた事』

小城市立牛津中学校 3年 ^{ひやく}百 ^{たけ}武 ^{あゆ}歩 ^み未

私が、小学生だった頃4年生くらいまではみんな仲が良くおにごっこやサッカーなど男女とも楽しく遊んでいました。4年生だった頃の学校はとっても楽しく毎日わくわくして学校にかよっていました。その頃クラスには18人ほどの人数しかおらず、その中には学校の隣にあった保育園から一緒だった友達も多くいました。

ですが、仲が良かったのも小学校5年生の頃にはいじめのようなものがすでに起こっていました。完全にいじめと言い切れないような事が起こったのは5年生から卒業式まででした。私たちのクラス内で起こっていたのは、3か月ごとにターゲットが変わっていくものでした。きっちり3か月とは言い切れませんが、だいたい3か月ほどだったと思います。それは、クラスのほぼ全員が体験したことがあります。その時、私がおのターゲットになった時のことを書きたいと思います。

私が、体験したのは小学校6年生の5月から夏休み前まででした。私はサッカーが大好きでした。いつも外に出て足にすり傷や青たんができるほど遊んでいました。そして、それと同じくらい読書が好きでした。なので本もたくさん読んでいました。ですが、ある日突然ターゲットになってしまったのです。その内容は、サッカーのチームに入れなくなったり、私が借りた本がバイキンがついているという理由で同じ学年の子に借りられなくなったりしていました。その中で一番嫌だったことは掃除の時間でした。私が自分の場所の掃除を終えて教室に戻ると私のイスだけ下げられていませんでした。私がおのイスを戻そうとすると教室の中からクスクスと笑い声が聞こえてきました。その頃の私は、涙をこらえるのに必死でした。「こんな思いをなんでしなければならぬの」と思いました。そして、今まで遊んでいたサッカーも本を読むこともやめ

て、一人で席でボーッとすることが増えていました。こんな話を聞くと大人はすぐに「なぜ大人に相談しないの」と言います。でも、子どもは相談しないんじゃないじゃなくて出来ないんです。「もし相談して先生がみんなのことを怒ったら」「また、仲間に入れてもらえなくなる」と相談することが不安になります。誰にも気づいてもらえない日々がとにかく嫌で休み時間は一人になる場所を探してずっと逃げていました。

でも、一人だけずっと声をかけてくれる友達がいました。その人は中学生になった今でもずっと話を聞いてくれます。そして、最後の中体連でダブルスを組みました。最後に点を取られた時、二人で大泣きしました。二人の絆はずっとあってその子は私に「大好き」と言ってくれます。私だってその子のことが大好きだし、大人になっても親友でいたいです。

今の私は、その子がいたからこそ小学校の嫌な思い出も笑い話になるくらいの心が持てるようになりました。

私には、どんな嫌なことがあっても一緒に笑える親友がいます。親友がいたからこそ小学校の嫌な思い出を忘れることもできます。

全国にいじめられている人はたくさんいます。その人たちを助けられる方法は、先生でも親でもなく周りの友達だと思います。あなたの周りにいじめにあって苦しんでいる人がいたら声をかけてください。その一言でその子は次の日も学校にこようと思えるかもしれません。

私は自分が友達に助けてもらったように、人助けが出来る人になりたいです。